

在宅医療と介護の連携 「住み慣れた地域で、 最期まで自分らしい暮らし」

市では、平成30年度から三股町や都城市北諸県郡医師会と連携して、在宅医療・介護連携推進事業を推進。高齢者が住み慣れた地域で、最期まで自分らしく暮らし続けることができるよう、取り組みを進めています。

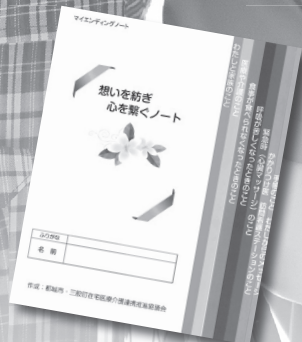
【都城市・三股町在宅医療介護連携推進協議会の取り組み】

在宅医療や介護、生活支援などの課題抽出と対応策の検討を重ねながら、医療や介護に携わるさまざまな職種向けのセミナーや市民講座などを開催しています。

市と関係団体が連携した取り組み

市の高齢化率は、31・2%（7月1日現在）。この値は今後、さらに高まります。一方で、医療と介護の両方が必要な人も増えることが見込まれています。このため、地域の医療と介護に関わる団体が連携し、在宅での医療と介護を包括的かつ継続的に提供することが求められています。

◎問い合わせ 介護保険課 ☎23-2685



topic

トピック

想いを紡ぎ、心をつなぐ エンディングノート

都城市・三股町在宅医療・介護連携推進協議会では、都城市・三股町版のエンディングノート「想いを紡ぎ 心をつなぐノート」を作成し、配布しています。ノートには、「自分で食事ができなくなったときのこと」「呼吸が苦しくなったときのこと」などの項目ごとに、希望する医療や、介護を記すことができます。

元気なうちに「これからどのように過ごしたいか」「何を大切にしたいのか」を考え、周囲の大切な人と話し合ってみませんか。

配布場所

在宅医療・介護相談支援センター
(☎090-4980-7830)、各地区地域包括支援センター、介護保険課、市・三股町内の医療機関

もしものときの話し合い 「人生会議」

誰もが、いつ、命にかかわる病気やけがをするかは分かりません。命の危険が迫ったとき、7割の人は医療やケアなどを自分で決めたり、人に望みを伝えたりすることができなくなると言われています。

「もしものとき」に希望する医療

【都城市北諸県郡医師会の取り組み】
市民の皆さんの「在宅医療や看取りについて知りたい」などの声にこたえようと、都城市北諸県郡医師会担当者が「しあわせ出前講座」を開催。受講者には、自らの終末期の希望などを伝えるエンディングノートを配布しています。

「人生会議」の進め方

心身の状態に応じて気持ちは変化する必要があるため、①②③④の手順で、必要に応じて繰り返し考え、話し合いましょう。

①大切にしたいことを考える

②一緒に考えてくれる人を決める

※持病があるときは、主治医や看護師に相談

③「もしものとき」の治療やケアについて話し合う

④話し合ったことを、ノートに書いて共有する